

Take Free!

ご自由にお持ちください

秋田県
薬剤師会
情報誌

おくすり塾

Vol.01

- 発行月：2014年12月
- 発行元：一般社団法人秋田県薬剤師会
- 企画・編集：秋田県薬剤師会・開局部会



インフルエンザに気づいたら

そろそろインフルエンザの季節が近づいてきました。風邪とインフルエンザはどう違うのでしょうか。



いざという時、「くすり」のこと、説明できますか？

複数の医療機関にかかっていますか？

くすりの重複をチェックしてもらいましょう！

健康食品を飲んでいませんか？

くすりの飲み合わせをチェックしてもらいましょう！

災害などの緊急時でも役立ちます！

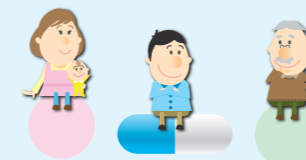
いざというときにあなたを守る命綱

「お薬手帳」は持って歩ける、あなたの「くすりのカルテ」です。

秋田県医師会 / 秋田県歯科医師会 / 秋田県薬剤師会

「医薬品副作用被害救済制度」をご存知ですか？

「もしも」のときに、「あなた」のために。

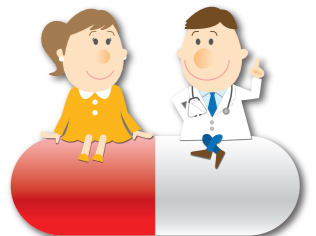


医薬品副作用被害救済制度

医薬品副作用被害救済制度は、病院・診療所で処方されたお薬、薬局で購入したお薬を適正に使用したにもかかわらず発生した副作用により、入院治療が必要な程度の疾病や障害などの健康被害について救済するものです。

Q. 請求はどのようにすればよいですか？

A. 給付の請求は、健康被害を受けたご本人またはその遺族が直接、PMDAに対して行います。その際に、医師の診断書などが必要となります。まずは、電話やメールでご相談ください。



請求の方法や給付の種類、救済の対象とならない場合などをご案内しておりますので、まずは電話やメールでご相談ください。

詳しくは [副作用 救済](#) または [PMDA](#) で [検索](#)

救済制度についての詳細は、PMDAにご相談ください。

救済制度相談窓口

0120-149-931

電話受付時間：[月～金] 9時～17時 (祝日・年末年始を除く)

Eメール：kyufu@pmda.go.jp



「インフルエンザウイルス」

雄勝中央病院薬剤科 淡路 泰志



そろそろインフルエンザの季節が近づいてきました。風邪とインフルエンザはどう違うのでしょうか。まず感染するウイルスが違います。風邪はRSウイルスなど、様々なウイルスにより感染、発症します。普通の風邪の多くは、のどの痛み、鼻汁くしゃみや咳等の症状が中心で、全身症状はあまり見られません。発熱もインフルエンザほど高くなく、重症化することはインフルエンザに比べて少ないようです。

一方、インフルエンザは、インフルエンザウイルスに感染することによって起こる病気です。38℃以上の発熱、頭痛、関節痛、筋肉痛等全身の症状が突然現れます。併せて普通の風邪と同じように、のどの痛み、鼻汁、咳等の症状も見られます。お子様ではまれに急性脳症を、御高齢の方や免疫力の低下している方では肺炎を伴う等、重症になることがあります。今回はインフルエンザについてお話しします。インフルエンザは世界的に大流行をするA型、A型に比べて大流行は少ないものの、毎年地味に流行するB型、症状が軽く、あまり問題にならないC型があります。

新型インフルエンザの世界的流行について

A型のインフルエンザはその原因となるインフルエンザウイルスの抗原性が小さく変化しながら

インフルエンザの対応ですが、厚生労働省では以下のように指導しています。

1) 流行前のワクチン接種

インフルエンザワクチンは、感染後に発病する可能性を低減させる効果と、インフルエンザにかかった場合の重症化防止に有効と報告されており、日本でもワクチン接種をする方が増加する傾向にあります。

2) 飛沫感染対策としての咳エチケット

インフルエンザの主な感染経路は咳やくしゃみの際に口から発生される小さな水滴（飛沫）による飛沫感染です。したがって、飛沫を浴びないようにすればインフルエンザに感染する機会は大きく減少します。親しい関係にあって、日常的に一緒にいる機会が多い者同士での飛沫感染を防ぐことは難しいです。また、インフルエンザウイルスに感染した場合、感染者全員が高熱や急性呼吸器症状を呈してインフルエンザと診断されるわけではありません。たとえ感染者であっても、全く症状のない不顕性感染例や、感冒様症状のみでインフルエンザウイルスに感染していることを本人も周囲も気が付かない軽症例も少なくありません。したがって、インフルエンザの飛沫感染対策としては、普段から皆が咳エチケット（[1]咳やくしゃみを他の人に向けて発しないこと、[2]咳やくしゃみが出る時はできるだけマスクをすること、[3]手のひらで咳やくしゃみを受け止めた時はすぐに手を洗うこと等）を守ることを心がけてください。飛沫

感染対策ではマスクは重要ですが、感染者がマスクをする方が、感染を抑える効果は高いと言われています。

3) 外出後の手洗い等

流水・石鹸による手洗いは手指など体についたインフルエンザウイルスを物理的に除去するために有効な方法であり、インフルエンザに限らず接触感染を感染経路とする感染症対策の基本です。インフルエンザウイルスはアルコールによる消毒でも効果が高いですから、アルコール製剤による手指衛生も効果があります。

4) 適度な湿度の保持

空気が乾燥すると、気道粘膜の防御機能が低下し、インフルエンザにかかりやすくなります。特に乾燥しやすい室内では、加湿器などを使って適切な湿度（50～60%）を保つことも効果的です。

5) 十分な休養とバランスのとれた栄養摂取

体の抵抗力を高めるために、十分な休養とバランスのとれた栄養摂取を日ごろから心がけましょう。

6) 人混みや繁華街への外出を控える

インフルエンザが流行してきたら、特に御高齢の方や基礎疾患のある方、妊婦、疲労気味、睡眠不足の方は、人混みや繁華街への外出を控えましょう。やむを得ず外出して人混みに入る可能性がある場合には、ある程度の飛沫等を防ぐことができる不織布（ふしよくふ）製マスクを着用することは一つの防御策と考えられます。ただし、人混みに入る時間は極力短くしましょう。次に現在使用されているインフルエンザの

ら毎年世界中のヒトの間で流行しています。これを季節性インフルエンザと呼んでいます。時として、この抗原性が大きく異なったインフルエンザウイルスが現れ、多くの国民が免疫を獲得していないことから全国的に急速にまん延することによって、国民の健康と生命、生活に、場合によっては医療体制を含めた社会機能や経済活動にまで影響を及ぼす可能性があるものを新型インフルエンザと呼んでいます。直近では、新型インフルエンザは、大正7（1918）年（スペインかぜ）、昭和32（1957）年（アジアかぜ）、昭和43（1968）年（香港かぜ）、平成21（2009）年（インフルエンザ（H2N2）2009）に発生しました。しかし、世界に流行が拡がり、多くの国民が新型インフルエンザに対して免疫を獲得するにつれ、このような新型インフルエンザも、季節的な流行を繰り返すようになっていきました。インフルエンザ（H2N2）2009についても、平成23（2011）年4月からは、季節性インフルエンザとして取り扱われることになりました。

次の新型インフルエンザウイルスがいつ出現するのか、誰にも予測することはできませんし、平成21（2009）年に流行したインフルエンザ（H2N2）2009とは異なる特徴を持っている可能性があります。

治療薬について説明します。

インフルエンザに対する治療薬としては、左記の抗インフルエンザウイルス薬があります。

オセルタミビルリン酸塩（商品名：タミフル） 内服薬
ザナミビル水和物（商品名：リレンザ） 吸入薬
ペラミビル水和物（商品名：ラピアクタ） 注射薬
ラニナミビルオクタン酸エステル水和物（商品名：イナビル） 吸入薬

ただし、その効果はインフルエンザの症状が開始してから時間や病状により異なりますので、使用する・しないは医師の判断になります。

抗インフルエンザウイルス薬の服用を適切な時期（発症から48時間以内）に開始すると、発熱期間は通常1～2日間短縮され、ウイルス排出量も減少します。なお、症状が出てから2日（48時間）以降に服用を開始した場合、十分な効果は期待できません。効果的な使用のためには用法、用量、期間（服用する日数）を守ることも重要です。最後にまとめですが、インフルエンザではワクチンの接種は有効であり、体質的にワクチンの接種が向きな人以外は摂取をおすすめします。また手洗い、うがい、マスクの着用は予防的効果があります。積極的に導入しましょう。

